

# 教宣福岡 号外

全損保日動外勤支部  
福岡分会  
平成17年12月16日

## 朝日闘争 全面勝利解決報告集会 in福岡



## 全面勝利解決おめでとうございます ものを言うことの大切さを学んだ27年間の闘い



(分会委員長の挨拶)

勝利解決には、提訴団一人一人の立場を超えたもの、経営者の不当労働行為は二度とさせない！労働組合を経営の手から取り戻す！という強い思いに基づいた決断があったということを知っています。そういう提訴団の仲間の思いに触れたとき、真の労働組合とその仲間の中の一員であることにたくさんの喜びを感じましたし、歴史的なこの時期にこのような時間を共有できることを非常にうれしく思っています。同時に全損保が組合員一人ひとりを大切に、また本当に働く仲間を守っていく労働組合であったからこそ、この勝利報告集会があるのだと確信しています。この勇気と信念を全損保の誇りと財産として、これからの私たち組合員の闘いに生かしていくことが一番大切なことだと思いました。

ここで、日動外勤支部の現状についてお話をさせていただきます。われわれ外勤社員は、東京海上日動社より、外勤社員制度の発

展的解消なる提案通知、要は外勤社員制度の廃止提案を突きつけられております。大きな衝撃がわれわれ仲間の中を走ったのはいうまでもありません。経営が解雇提案をだしてきたのです。経営はこの結論に至った経緯をただ一言、経済合理性という言葉だけで片付け、雇用関係にある外勤社員を、単なる募集網としてとらえ、会社としての雇用責任を放棄し、一方的に切り捨てようとしています。合併後、東京海上日動社は、コンプライアンス問題を取りざたし、旧社時代、社

員制度の生産性向上のため、労使合意しさらに発展的に構築してきた社員制度を、次々と改訂し、経済合理性とは逆行した制度へと変質させてきました。合併後の一年は経営による締め付け、組合つぶしとの闘いであり、多くの仲間が退社していきました。そして今回の会社提案。合併後1年を経て、経営が言ったことは制度廃止・・・たった1年で何を判断したのか？また出来るのか？経営は苦渋の決断と言いますが、リーダーカンパニーを自負する東京海上日動社が現社員制度の収益性を合併前に把握してなかったなどということは到底考えられません。合併前からしかれたルールと思わざるを得ない状況が見え隠れしているのです。こうした中、11月13日、日動外勤支部は全組合員参加による臨時大会を開催いたしました。分散会を含めた丸一日の論議の結果、大会はふたつの方針を決議しました。ひとつは外勤社員としての雇用を確保させること。二つ目は代理店もしくは職種変更希望者に対する不利益変更を許さないこと。以上二点をかかげ、労使合意と組合員一人ひとりの納得なくして制度廃止は認めない基本方針を確立しました。これは仲間のそれぞれの思いが結集されたぎりぎりの方針です。今後の日動外勤支部の闘いにつきましては、是非とも全損保のすべての仲間に監視の目を光らせていただきたいと思うと同時に、われわれもこの朝日闘争勝利でいただいた勇気をもって、理不尽な経営の姿勢を迫及し、労働者としての権利を守っていくことはもちろんのこと、全損保に残ってよかったと思える闘いをすすめてきます。

## 福岡分会 参加者の声

27年間の闘争で完全勝利になり本当におめでとうございました。全損保は本当に素晴らしい組織と思います。

1978年に野村証券から田中迪之亮社長が送り込まれ、1979年から「外に出るたたかい」が始まった年に私は、日動外勤へ入社しました。その当時は、先輩が言われるがまま、朝日火災の早朝ピラマキを西鉄久留米駅前月一回配り、特に冬の厳しい寒さに震えながらかじかむ手にピラマキを持ち、やせ我慢して配り続けた事がなつかしく思い出されます。朝日闘争全面勝利解決報告集会に参加して27年間という長い間、卑劣な差別を受けながら、全損保の組合員としてどうして残ってこれたのか？疑問が解けました。その答えは、人間として正直に生きてこれた事、人として裏切ることなくやれた事、それは生き方の問題である事に確信が持てました。私にとって、これからの人生の選択肢を考えさせられる集会でした。最後に印象に残った言葉は、「たたかをやめねば負けない。」「仲間を信じないで人間として生きられない。

朝日闘争に殆ど関わった事がなく、話を聞く程度でしたが、集会に参加して父親くらいの世代の方達と会話して、非常に情熱を持った熱い方ばかりだなと感じました。私たち若い世代も負けてられないと火を点けられた感じがしました。

朝日闘争の勝利集会に出席させていただいて、みなさんの顔の表情が豊かで自信に満ちて溢れていた感じだったのが印象的でした。

「会社主導で物事がすすんでしまっている世の中にあっても、働く者が団結できれば経営の力に勝てる！」と、いう事を実感できる集会であった。働く者が団結できるためには組織が必要だ。全損保の存在は非常に大切だと思う。我々も外勤社員だけの問題としてではなく、オール日動社員のために言うべきことは言い、やるべきことはやっつけていかないといけない。経営の思うままにはさせてはならない。